

います。

○**渋谷佐輔議長** 2番、浅野敏明議員。

○**2番 浅野敏明議員** 以上で質問を終わります。
ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時57分 休憩

午後1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位3番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** 6月の定例会で、一般質問における本庁舎の女子トイレの荷物の置き場所、タオルの手拭きなどを早束手配していただきました。ありがとうございました。

それでは、順次質問させていただきます。

第1項目、長井ダム周辺観光について。

観光交流センターもいよいよ工事が始まるわけですが、それと並行して観光地域づくりプラットフォームも本格的に活動することと思います。花観光シーズンはもちろんのこと、長井駅へおられた方々にも、まちなかガイドとして、ながい黒獅子の里案内人の皆様には本当に頭が下がる思いです。これからも長井を訪れる皆様へ、長井の魅力はもちろんですが、皆様のおもてなしの心をいっぱい持ち帰っていただきたいと思

ます。

それでは、本題に入らせていただきます。

水と緑と花のまち長井といった長井のキャッチフレーズのもとに、水に関しては長井ダム周辺は魅力的だと私は思います。長井ダムは中心市街地から約10分のところにあり、こんなにまちから近くにあるのは全国ではめったにないと思います。春の新緑、秋の紅葉、真夏の涼しさ、そして最上川リバーツーリズムネットワークで行っている三淵参拝、溪谷通り抜けなど、この自然豊かな長井ダム周辺を観光の一つとして力を注いではいかがでしょうか。

例えば、市内循環バスを定期的にながい百秋湖まで走らせる、そして、まなび館では、土日など地元の皆様のご協力を得てお店を出してもらう。そうすることで長井の郷土料理も味わえるお店を出すことにより、地元の皆様のお料理をつくる楽しみと交流ができる楽しみで健康寿命を延ばす、そんな意味も兼ね備えることができるのではないのでしょうか。まなび館の中では商品の販売はできませんので、まなび館の外で手軽に店を出せる軽トラなどを利用した市場の開催や、販売用の軽ワゴン車を配備するなど、検討をしてはいかがでしょうか。

また、雪の魅力もあると思います。雪灯り回廊、雪わっさ、ほとんどボランティアの皆様のお力で今行っているわけですが、都会の人にはたまらない魅力があるようです。こういった資源は、何もしなければただの資源であり、住んでいる皆さんが誇りに思う自慢できることで地域資源になるのではないのでしょうか。

また、21世紀不伐の森から眺める祝瓶山、大朝日岳、三体山、合地沢から上に行けば日本三百名山の祝瓶山を望める木地山ダム、そんな観光コースもあると思います。それから、まなび館西側のJ V工事事務所跡地をオートキャンプ場など考えてもいかかかと思ひます。長井ダムを後にして西山の裾野を走り、草岡にある古代

の丘、そして白兔の葉山森林公園と、そんな観光コースもあるのではないかと思います。

観光ルートの話をしました。古代の丘バンガローの利用については、古代の丘管理事業費として年間400万円余りの予算で管理運営しているにもかかわらず利用が少ないのは、まだまだコマース不足のような気がいたします。また、あやめ公園の入場数も減ってるわけですが、やはりまず大切なことは、住んでいる市民が楽しめる、楽しむ公園でなくては、市外からの観光交流は先が見えてる気がいたします。市民が楽しく集うところ、地元で愛されるところに観光客が来られると思います。この点につきまして、市長の考えをお伺いいたします。

第2項目、木質バイオマス発電について。

私の生まれ育った寺泉には、太陽光発電、そして昨年完成しました小水力発電、そして今計画の木質バイオマス発電と、生活と切っても切れない電力発電の施設ができる予定ですが、平成28年1月工事着工、平成29年4月稼働開始と聞いておりましたが、今の状況は予定どおり進んでいるのでしょうか。

何十年前にもなりますが、同じ寺泉に日鍛バルブの会社が誘致されるということで、土地の手配、また人員も地元から研修に行ったわけですが、実現されず、研修に行かれた方もそのまま本社のほうに勤務され、戻ってこられませんでした。ぜひこのようなことがないように、しっかりとした計画を持って進んでいただきたいと思います。

以上の件について、市長にお伺いいたします。

次に、バイオマス発電で1日に使用する木材の供給はどうなるのでしょうか。今、森林が荒れ放題の中、都合のいいように木材が集まるのでしょうか。この件について、産業参事にお伺いいたします。

これに関連しまして、市道冠木前線は平成26年度で測量設計を行いました。建設の時期は

いつなのか、道の幅などの規格はどれぐらいなのか、建設課長にお伺いいたします。

第3項目、生涯学習プラザ運動公園について。

すばらしい陸上競技場ができ、こけら落としも無事に終わり、ナイターなどで子供たちが走っている姿はとてもすばらしく、将来に期待が持てます。

ことしのこの暑さで芝の管理にはとても苦労されたようですが、毎年気象状況が変わる中で、天然芝の手入れ等、予想のつかないことがあると思います。その場合の対処、特に平成27年度では補正を含めると委託料が約1,300万円かかるようですが、この予算額についてはどのように考えておられるのでしょうか。来年度以降も同様に維持費がかかるのでしょうか。

また、周りの樹木についても、雪害等の対処、雑草の対処など大変苦労があるように思われます。もし植えかえなさる場合は、ムクゲやサルスベリなどの乾燥に強い樹木にしたらいかがでしょうか。どのように考えておられるのか、市長にお伺いいたします。

また、生涯学習プラザ運動公園では、商工会議所青年部の全国サッカー大会がいよいよ来年の夏、具体的には平成28年7月1日から3日に開催日程が決まりました。これにつきましては内容市長も静岡へ同行なされ、この全国サッカー大会が誘致されたことです。全国から約1,000人近い青年たちが集まります。もちろん商工会議所が主導なわけですが、運動公園はもちろんのこと、長井市を全国にアピールできる絶好のチャンスだと捉えます。この件に関して長井市はどのような支援を考えておられるのか、市長にお伺いいたします。

また、陸上競技場のナイター設備に関してですが、夜間の利用者数と利用料金、電気料金はどのようになっているのか、支出が過大になっていないのか、生涯スポーツ課長にお伺いいたします。

以上で壇上の質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員からは、大きく3点ご質問をいただきました。

まず最初に、長井ダムの周辺の観光についてのご質問でございますが、議員からたくさんのご提言をいただいたところでございます。ありがとうございます。

まず最初に、長井ダムの観光ですが、残念ながら長井ダムは民家が1軒も沈まない、これいいことなのかもしれませんけども、そういった関係で、いわゆる地域の活性化のための支援は全くない。ただ、既決予算の中で、ダムの事務所のほうで地元のためにさまざまな地域振興にもつながるような整備をしていただきましたので、その関係で、例えば現在、道照寺平スキー場として使わせていただいている残土を置いていただいたとか、あるいは濁沢というところは、埋め立てをしていただいて平地にさせていただいて眺望のいいところとか、あるいはダム湖をいろいろ活用できるようにということで、ボートなどを浮かべられるような、そういった箇所なども設けていただいたりとか、あとは展望台ですね、これは観測地として展望台を兼ねるような、そういった整備をいただきました。

やっぱり議員もおっしゃるように、長井ダムの周辺の利活用は、実はこれからだと思っております。というのは、例えばまなび館というのがございますが、これは長井ダムの広報のための施設でございました。ただ、これはダムの工事が終わる際に、後ほどJVのお話もございましたけども、あそこの跡地なども全て取り壊すという前提なんですね。ただ、ダムのほうからは、国交省のほうからまなび館が必要だったら市のほうに貸し出しますということだったものですから、こちらでお願いしてあれを残してもらったんですね。ただし、運営するにははすご

くお金がかかるので、苦肉の策で、ダムの防災センターとして半分国で施設の維持費を持っていただけてます。それについても管理運営できる団体がなかったということで、最上川リバーツーリズムネットワークさんがああいった形で活用いただけてるというのが今日につながるんだと思います。

これからなんですが、おかげさまで観光振興計画をつくってことしで4年目なんですけれども、それと観光まちづくりプラットフォームという新たな機能ですね、東北では恐らく2番目になるんだと思いますが、こういった機能をつくるのはですね。そういったことができるようになって、初めて長井ダムの観光を生かすことができるというふうに思ってます。

長井ダムの利活用については、ダムが完成してことしで4年目、丸4年たったわけですが、長井ダム水源地域ビジョン推進会議というのがございまして、こちらが地元の団体、あるいは我々行政も入ってますけども、有識者の方々に組織していただいて、これから長井ダムの周辺環境の水源地をどう守るかという視点でいろいろ話し合いをしていただいて、自主的に活動していただけてます。ただし、国からの支援は全くないという状況なんですね。

これからダムをどういうふうに生かすかということですが、鈴木議員もおっしゃるように、まちの中心部から車で10分、15分というのは全国的にも本当に珍しくて、私の知る限りでは埼玉県の秩父ダム、これが10分か15分ぐらいですね。それぐらいしかないんじゃないかと。ですから、そういった意味ではどういうふうに生かすかということでみんなで知恵を絞って、そして観光地域づくりプラットフォームがあるわけですから、その長井ダムの周辺観光を生かすような旅行商品を、着地型ですね、つくって、それでフリーの観光客であったり、あるいは大手の旅行会社の団体の一部に組み込んだりとか、

そういったことができると思います。そこで今度、市民の皆様楽しんでいただくとともに、市外からのお客様もお越しいただけるような工夫をしていきたいと思います。

特に、三淵の溪谷のツーリングといますか、探検といますか、そういったことは本当にすばらしい資源だと思ってますので、こういったものを生かす商品づくりなどをNPOのリバーツーリズムさん初めいろいろ検討してまいりたいと思いますので、ぜひこれからということでご指導をいただければありがたいというふうに思います。

(2)の古代の丘のバンガローの使用についてでございますが、これは議員おっしゃるとおりで、管理はある程度お金はかけてるんですが、ほかの、例えば飯豊町の木湖里館ってあるんですね、白川ダム湖畔に。フォレストいいでの管理の一つなんでしょうけども、あそこですと年間それでも1,500人ぐらいですけども、利用されてると。それに対して長井の場合は、主に夏休み、90団体ぐらいですね。あと個人としては、小グループとしては10件ぐらいのようなんですけども、利用が少ないと。

そこで、ちょっと性格が違うんですね。あそここの長井の古代の丘のバンガローについては、縄文時代の生活をそこで体験するということが基本になってるもんですから、今の例えば飯豊の比較にならないかもしれませんが、バンガローなんかと比べると、各バンガローに当然トイレ、シャワーないです。それから調理施設もないですね。ただ泊まるだけ。センターとなる体験施設ございますよね、あそこでいろんなものやって、あるいは外にも調理施設などもございますけども、あそこで不便な生活を体験してみるということが基本で、そのかわり1泊3,080円、1棟で。ですから何人で行っても3,080円なんです。日帰りの場合が1棟で1,020円ということです。一方で、飯豊町の場

合は1万5,000円とか1万7,000円とかですから、もう全くニーズが違うんですね。

そういったことで、単純な比較はできないんですが、私はこれはこれで非常に重要なものだと思ってますので、ただ、古代の丘というのは非常に広がりがありますので、草岡から勧進代まで、もっと違った意味の飯豊みたいなバンガローも必要だったらつくることも検討しなきゃいけないんじゃないかなと思ってるところでございます。

この辺ですと、朝日町のAsahi自然観が非常に有名で、全国からバンガローを借りにいらっしゃいます。私どもとして古代の丘をどういうふうに生かすかということで、これからの課題だと思ってます。現在は、私が言いましたように、やっぱり縄文の生活を体験するということなんですね。これはこれで非常にいいと思うんですが、ぜひこれらについてもいろいろご意見、ご提言などをいただければありがたいというふうに思います。

この項の最後、市民が楽しめる、市民に愛される公園についてということで、これはごもつともございまして、例えば長井市の公園というのはいろいろあるわけですけども、これは長井市に合っている、特にアヤメというのは全国に誇れる資源であります。ただ、現在は市民のニーズというのはかなり多様化しておりまして、今のあやめ公園とかは、必ずしも市民がぜひ行きたいというような公園になっていないんじゃないかと。そこを観光協会などが努力されて、お祭りでそれをカバーしてるというのが現状です。ただ、そういうお祭りはお祭りで重要なんですけども、あと公園そのもののあり方についても考えなきゃいけないと思ってます。

したがって、都市公園の長寿命化計画というのを立てまして、ことしから野球場のリニューアルを始めてるわけですけども、あそこはあやめ公園の都市公園と一体なんです。ですから、

スポーツ施設、テニスコートなども整備を終えた後、あるいは同時並行的にあやめ公園のあり方についても、今から十七、八年ぐらい前にあやめ公園の大改造をしてるわけですけども、半分しかしてなかったですね。今、北側の駐車場と北側の入り口のところは、あの周辺は残念ながら整備してませんので、あそこのあり方も含めて整備しなきゃいけないと思いますが、鈴木富美子議員がおっしゃるように、白つつじ公園についてもそうなんですけど、まずは市民に利用していただいて、市民がいい公園だと、ぜひ行きたいと思わないと観光客が行かないということでもありますので、やはりまずは市民に愛されるような公園づくりについていろいろ検討をしなきゃいけないと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

続きまして、2番目の木質バイオマス発電についてのご質問でございます。私のほうからは、進捗状況についてお話ししたいというふうに思います。

午前中の浅野議員の質問でもございましたけれども、再生可能エネルギーの県としての将来計画を立てて、その中で、特に私ども市町村は少しおくらせてるんですけど、山形県のほうでは吉村知事も積極的に再生可能エネルギーを活用しようとして、そのために県もいろんなことを支援しようということで、長井では小水力発電が、これは県の事業で農水省の補助事業でやって、それを地元の野川土地改良区で運営してると。

同じように、実は木質バイオマス発電というのも、これは県の再生可能エネルギーを担当してる、資源エネルギー課ですか、のほうからの、実は山形県の中でいろんなところを見ましたけども、長井の寺泉地区が一番立地に適してると。ですから受け入れてほしいという企業誘致のどうか、そういったことがまず最初なんです。

したがって、私どもとしては市有地をここではどうでしょうかと言ったんですが、企業

側で、あるいは地元の調整で今の場所に、これは全くの民地です、に場所が移行したということでありまして、これに対して、やっぱり企業誘致ですから企業側の都合があるんですね。

なもんですから、私どもでは県と市と一体となってその受け入れをしてるという状況でございまして、議員からもありましたように、本来であれば26年度中に工事をして今年度あたりからもう発電する予定だったんです、操業する予定だったんですが、1年以上おくらせてまして、ことしの4月にはプラントメーカーが現地の確認を行いまして、プラントメーカーというのはバイオマス発電をつくる、設備をつくる会社ですね。これは事業主体は日本バイオマス開発という神奈川県本社の会社ですけども、6月に地質調査を実施してるところです。

ことしは経済産業省の補助を受けまして、プラントと工場建設の準備と並行しましてバイオマス発電の廃熱利用の可能性についての研究。バイオマス発電というのはいろんなタイプがあるんですけど、長井のバイオマス発電は、チップ材とかそういう木材を燃やすのではなくて、圧力をかけて蒸すんですね。そうするとガスが出ます。そのガスでタービンを回して発電すると。そうしますと、タービンを冷やさなきゃいけないんです。それ水で冷やすということで、熱湯というほどではないんですが、それなりの温度の水が出ると。その水、熱湯をうまく活用して二次的なものをしようということでの経産省の事業の認可をいただいたようなので、今進めております。

これについては、長井市も一緒にこの排湯の利用についての事業を進めてますが、これからでございます。今年度中に検討の結果を、その廃熱利用ですね、排湯の利用をまとめる予定です。

今後の予定は、間もなく間伐材の供給等の事業計画が明らかになると思いますが、この時点

で、発電事業者から専門的な内容を含めた地域への直接の説明をしていただくことにしております。

比較的那その前の日鍛バルブさんとちょっと違うのは、県が一緒に入っているということと、現地の皆さん、寺泉の皆さんも、現在村山のほうにあるんですね、それをごらんになったりして、間に地元の県議に入っていたり、あと私どもも直接入って三者で連携してやっておりますので、不安なこともあるかと思いますが、ぜひいろいろ見守っていただくとともにご指導いただければと思います。

最後に、生涯学習プラザの運動公園についてでございますが、維持管理と運営についてということで、私からは芝の管理と植栽関係についてお答えをしたいと思います。

生涯学習プラザの運動公園については、鈴木議員おっしゃるとおり、維持管理費でちょっと多大な経費を見込まざるを得ませんでした。というのは、やはりフィールド内の張り芝については大分管理も行き届いて非常に良好な状況だと思いますが、いわゆる種から出した実生の野芝については、時期が、工期がおくれたということもあって残念ながらあんまり管理がよくなかったということで、もう一度播種したり、あるいは来年の全国の商工会議所青年部のサッカー大会に合わせた対応をするということで、万全の対応ということで1,300万円見込ませていただきましたけれども、来年度以降は、来年はちょっと少しまだかかるかもしれませんが、3年、4年と落ちつきますと、大分コスト的にはカットできる部分が出てくるんじゃないかなと。ただし、維持管理費に1,000万円前後ぐらいは考えておかなければならないんじゃないかと思っております。

それで、議員からは、周りの樹木の植えかえなどということですが、樹木の植栽については、どういう木が一番適してるかということである

いろいろ検討した上での現在の樹木です。やっぱりよくあそこを利用されるお子さんの保護者の方なんかでも、日陰のところは一切ないから早く日陰つくってほしいということもあるんですが、でも、普通はあのぐらいの陸上競技場、例えばスタジアムみたいなものでしたらまた別なんです、大体日当たりはいいんですね、どこへ行っても。樹木があるところというのは、よっぽど周りじゃないと思います。ただ、学習プラザについては周りも樹木がありませんので、今後、周りの農地に影響を与えないような形で、どういうふうな植栽が可能かということも検討してまいりたいと思っております。

あと、商工会議所の全国サッカー大会の支援ですけれども、これについては、やはり長井商工会議所は青年部の皆さんが、長井で手を挙げるということについて、米沢であったり山形、天童、新庄、酒田、鶴岡とか、県内の商工会議所青年部の支援を受けてますので、そういった意味では長井市としても全面的に支援していきたいと思っております。

一番の課題は、芝ということの心配はされてるんですが、会場が、大体1,000人ぐらい例えば選手がいらっしやるすると、長井は2コート、あと米沢2コート、白鷹が1コートとかですね、いろいろ借りるもんですから広域で移動しなきゃいけないということと、あと宿泊が当然長井だけでは足りないわけで、白鷹、飯豊、南陽あたりまで協力してもらわなきゃいけないだろうと。

あと一番は、1,000人ぐらいでやれるパーティーの会場がないということで、屋外でやりたいという話で、その辺については大きいテント必要なもんですから、その辺などを含めてどういうふうな支援をしたらいいか、あと人的支援などもぜひしなきゃいけないと思っておりますので、これは商工会議所青年部といろいろ話し合いをしながら全面的にやっていきたいという

ふうに思います。

私のほうからは以上でございます。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 孫田邦彦産業参事。

○**孫田邦彦産業参事** 私からは、2番の木質バイオマス発電についての木材の供給の見通しはあるのかというご質問でございますけれども、寺泉に建設が予定されていますバイオマス発電所につきましては、市長からもありましたように山形県の企業誘致によるものでございまして、したがって、木材の確保においても県が責任を持って対応しているところでございます。

そのため、置賜木質バイオマス協議会が平成26年度に県の指導によって組織されてございます。協議会の会員でございますけれども、操業を予定しております発電事業者を初め、西置賜ふるさと森林組合、小国町森林組合、米沢地方森林組合、山形県森林組合連合会、木材産業協同組合、森林整備事業協同組合連合会という構成になってございます。本市につきましては、アドバイザーというような立場で加わっておるところでございます。

協議会におきましては、木材の供給や価格等の協議を継続しております。発電所の建設スケジュールからしますと、事業計画が明らかになるのは、今年中に実際の供給体制について結論が出るものというふうに思っております。

なお、置賜管内の森林面積、国有林と民有林を合わせました面積でありますけれども、19万2,382ヘクタールございます。そのうち民有林の針葉樹、いわゆる人工林でありますけれども、3万6,953ヘクタール余りがございまして、1ヘクタール当たりの間伐量を約16トンとして計算しますと、合計59万トンということになります。現在、発電所で予定しております木材の年間の使用量は約2万トンでございますので、それを59万トンを2万トンで割りますと、民有林の針葉樹だけで約30年分材料が存在するという

ことになってございます。

木材資源は十分にございますので、今後その協議会でこれらを実際に活用する手段、方法等について検討するという予定になってございます。そのことによって、森林の再生及び木材産業並びに発電産業の振興に寄与していただけるなどというようなことで期待を申し上げるところでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 青木邦博建設課長。

○**青木邦博建設課長** 木質バイオマス発電について、(3)の進入路の道路はどういう状況なのかについてお答えいたします。

仮称市道冠木前線につきましては、平成26年度に測量設計、用地調査等業務委託を発注し、現在、平面測量のみで終了しております。

今後の道路整備につきましては、道路幅員も含めた開発行為の許可を得た上で、設計、用地測量、用地買収を経て着工となります。これらの着手予定といたしまして、平成28年度当初、4月を考えております。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 佐野安広生涯スポーツ課長。

○**佐野安広生涯スポーツ課長** 長井市陸上競技場のナイター利用状況でございますけれども、4月から8月までの利用者数は556人ございました。そのうち335人が使用料の支払いがあり、221人はスポーツ少年団活動等で減免対象でございました。使用料といたしましては2万5,660円ですが、減免分が8,910円ございましたので、収入としては1万6,750円ございました。

電気料金につきましては、単独のメーターは設置してございませんので正確な数字は算出できませんが、メーカーと業者からの資料によりますと、高圧受電の場合の電気料金として1キロワットアワー当たり17円から20円ということでございました。20円とした場合、1時間当たり528円になります。使用時間が35時間ございましたので、電気料金が1万8,480円という

ふうになりますので、支出が過大にはなっていないかと考えております。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 市長さんからの、ダム周辺観光につきまして前向きな検討されるということで、よろしく申し上げます。

J Vの跡地ですが、オートキャンプ場という大きいものじゃなくても、芋煮会とかバーベキューなどをする施設を無料で貸し出しするという、まだ水道を埋設されてると思うので、ちょっとした設備をしていただくと、鍋の貸し出しとかをまなび館に置いておけば少しでも収入になったらいかなと私は思うんですが、その点と、あと最上川リバーツーリズムネットワークのほうでなさってる船に乗せる溪谷なんですけど、そこにお弁当などをつけていただいて、そのお弁当をおりてからダム周辺で食べていただくということも、もし検討されたら、せっかくの地域資源を観光資源につなげるような、まちなかから定期的に、先ほどおっしゃったような組み合わせした旅行商品をぜひつくっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 鈴木富美子議員がおっしゃるように、オートキャンプ場を実はしたくて、いたんですね。J Vのほうで建物は撤去するんですけども、水道とか電気とか、確かに本管、管は来てるんですが、全部敷地内にあって舗装もなってたんですね。すぐオートキャンプ場にできるということだったんですが、管理するところがなかったんです。地元でどうだとか、いろんな団体とかに声をかけたんですが、なかなか難しいということで、仕方なく更地にしたということなんですね。

ただ、今おっしゃるように最上川リバーツーリズムネットワークさんがあそこで頑張っていると思いますので、可能性としてはあるかと思

います。

あとは、あそこの長井ダムの百秋湖のクルージング、24人乗りぐらいですと、水量があるときは三淵に入れるそうなんです。ただ、動力がガソリンとか化石燃料のものを使いますと、ダム湖が、事故の場合、油なんかで汚れてしまう場合があるということで、厳格な許認可が難しい、そういう手続が必要だということで、それで今はそういう許認可しなくても大丈夫なように、カヌーとかゴムボートとか人力のやつは大丈夫なんです。あとは電力のモーターとかでやれるんじゃないかということでやっておりますが、やはりそれにつけても、じゃ、みんなで出資しながらやろうということで出資してくださる方なんかは法人も含めてあるようなので、それらを期待したいんですが、去年、26年度に山形デスティネーションキャンペーンだったので、何とか最上川リバーツーリズムネットワークさんにクルージングをしてもらおうようにボートを買ったかったんです、市で。で、お貸しするというのをしたかったんですが、市では買えないということがわかりまして、災害救助用とかなんかだったら買えるんですが、起債がきかないということで現金だったら買えるのかもかもしれませんけれども、なかなかこれも昨年の段階では難しかったのかなと思いますので、それらについてもこれからいろいろできると思います。

あと、なお、お弁当を出してというようなことで、それをするためにも去年からリバーツーリズムネットワークさんのほうにお願いして、具体的にまだ詰めてないんですが、いわゆるフットパスの事務局をやってもらえないかと。長井市がフットパス協会の長井支部としてちゃんと会員を募って、鈴木富美子議員も行かれたように、熊本のフットパスのように毎月1回、最低は。会員の皆さん集めて何百人かいろいろなコースをめぐる。ですから、長井の場合は川

沿いのフットパスなんですけれども、まちなかのフットパスもありますし、あと山沿いの長井ダム周辺のフットパスもあっていいと。ですから、そういったところで定期的にツアーとか催し物をやりますと、お昼は弁当を出すんですよ。あと地元の皆様からも応援していただいて、そういった地域の活性化にもつながりますし、それと、ダム観光でしたら市外からのお客さんも呼べるんじゃないかなと思いますので、ぜひその辺なんかも、鈴木議員からもご提言いただければありがたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひ前向きに捉えて、私たちも応援したいと思いますので、よろしくをお願いします。

先ほどバンガローの件ですが、やはり特別に縄文時代を体験してもらおうということで、余計コマーシャルのしようがあると思います。星の広場とか、夜とてもきれいなので、そういった意味でも、ぜひその辺も推し進めていただきたいと思います。

済みません、あと木質バイオマスについてお聞きしたいんですが、産業の振興と雇用に関して私たちも大きな期待を持ってるわけですので、ぜひ県のほうと協力して、市でも一生懸命誘致していただくように運動していただきたいと思いますが、市長、どのように運動していただけますか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 日本バイオマス開発の社長さんとか関係者の方は何回も長井市にお越しいただいて、市役所も3回お越しいただきました。それで、やはり課題としては、プラントがやっぱり何十億円のプラントですので、その資金計画と、あと当初は農林水産省の補助を受けてやる予定だったようですが、それをしないで民間でやると。ただ、木質バイオマス発電は非常に料金も高いんです、40円だと聞いてます、1キ

ロワット当たり。ですから、一番高く買い取っていただける、しかも安定的な電力なものですから、これらについては可能性があると思いますが、やはり私どもとしては、ぜひ市で手伝うことがあればやりますんで、できるだけ早くということをお願いしているところです。

なお、当初の計画ですと、最低、当初15名ぐらいの地元の職員として、本社員として採用するというような計画でございました。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひ推し進めていただければ、よろしくをお願いします。

地元でも期待しておりますので、今まで反対とかいろいろありましたが、ぜひ地元でも、皆さんで協力する体制できておりますので、よろしくをお願いします。

プラザ運動公園につきまして、全国のサッカー大会のみならず、県の高校駅伝、あと東北高校駅伝は2年に1回の割合での長井に来てるわけですけど、フルマラソンや長井マラソン、こういった面ですごくスポーツ振興にプラザ運動公園、役に立つ、これからますます活用できると思いますが、多くの人にスポーツを通して長井に来ていただいて、人と人との交流を推し進めていく上でもこれからの地方創生につながるのではないかと思います。もっともっと長井をアピールして、いや、ここさ来たら1回住んでみたいと思うような市の施策も必要かと思われませんが、いかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** おっしゃるように、生涯学習プラザは第三種の公認の陸上競技場も兼ねてますので、県の高校男女の駅伝とか東北高校駅伝はもちろんです、この間、上山のほうに北京で行われている陸上の世界選手権のポーランドのチームが一時合宿しましたけれども、長井でちょっと足りないのが、宿泊とか合宿できるような宿泊できる施設がちょっと厳しいのかなとい

うふうに思っておりますが、市内の中で、タスとかはぎ苑とか、あとはビジネスホテルなどもありますので、そういったところと一体となって誘致できる素地があるだろうというふうに思っています。もう少し研究しなきゃいけないんですが、そのため、5年後の東京オリンピックに向けた全国の市町村、大体280ぐらいの自治体で連盟つくって、観光であったり、そういう合宿受けるよということ、山形県内では南陽とうちと、あともう一つ町が2つぐらいですね、4つぐらいしか入ってないんですが、それにこの間加入しまして、いろいろ情報交換しているんですけども、やはりそういった誘致も含め、あとは市民の皆様にもいろいろご利用いただけるような、そういった機会を数多くふやしながら、まず市民の皆様にも、学習プラザだけじゃないんですけども、いろいろスポーツを楽しんでいただいて健康を維持できるように、これからも努力していきたいと思っておりますので、いろいろご提言いただければというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 前向きなお答えありがとうございます。私たちもぜひ一生懸命頑張らして、長井市は山の港町ということで、まだdestinationキャンペーンのイメージが終わらないうちに、どんどんそういった観光に推し進めていければと思います。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

内谷邦彦議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位4番、議席番号4番、内谷邦彦議員。

(4番内谷邦彦議員登壇)

○**4番 内谷邦彦議員** 通告しております私が感

じている疑問点について質問させていただきます。回答よろしくお願いたします。

1番、電力の自由化について。

2000年に契約電力が2,000キロワット以上で受電する大型事業者に対して特定規模電気事業者による小売が認められ、2003年に電源調達の多様化を図るため有限責任中間法人日本卸電力取引所が設立され、2004年に基準を500キロワット以上に引き下げ、2005年に50キロワット以上に引き下げ、日本卸電力取引所の基準市場が開設、2016年4月より自由化の対象が一般家庭や小規模店舗まで拡大されます。

2015年3月11日現在の登録業者596社、その中で電力供給を行っているのが59社あり、実際、経済産業省では、大規模な工場やオフィスへの電力の小売を自由化した後、電力会社間での競争が活発化したことで電力料金が抑制され、その効果は全国で5兆円に達したと発表しております。

8月14日、産経新聞によると、セブーンイレブン・ジャパンが10月から近畿4府県約1,000店で電力の調達先を関西電力から東京電力に切りかえることがわかったとの記事が出ており、愛媛県松山市の中学校29校が四国電力から新電力に切りかえたところ、年間約6.2%、金額にして500万円分削減したという事例もあります。

しかし、電力安定供給に対してのリスクという不安材料があることも事実ですが、実際には、新たに設立される広域的運営推進機関で電力不足が起きないように電力の使用量と発電量のバランスをとり、万が一停電リスクが高まったときには地域間で電気を融通したり、電気の慢性的な不足が見込まれる地域に発電所をふやすべく企業を入札で募るといった役割を担う機関もできております。

また、異業種から数多くの会社が電気事業に参入することによるトラブルを防ぐことを目的として、電気を販売する全ての会社にライセン